

# Technics

FM/AM Stereo Tuner  
FM/AM ステレオ チューナ

## ST-C01

### 取扱説明書

松下電器産業株式会社



ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

このたびは、Technics のFM/AM ステレオチューナ ST-C01 をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

本機の保証書を購入店でお受取りのうえ、この取扱説明書とともによくお読みいただき、たいせつに保存してください。

## 目次

●保証・サービスについて	1
●特長	1
●ステレオシステムの構成と接続	2
●前面操作部の名称と使い方	3
●チューニングのしかた	4
●放送の聴き方	4
●FMアンテナの接続と使い方	5
●AMアンテナの接続と使い方	6
●ブロックダイヤグラム	6
●異常症状と対策	7
●データグラフ	9
●安全にすえ長くご使用いただくために	9
●外観の手入れ	裏表紙
●前面部の上げ方	裏表紙
●定格と付属品	裏表紙

## 特長

### 完全同調点を正確に保持するアクティブサーボロック回路

本機は、フロントエンドのRF段にデュアルゲートジャンクション型FETの採用を始めとし、安定受信するため、発振コイルにコンデンサ類を一体型として、局部発振回路のドリフト(変動)を防ぎ、感度、妨害排除特性のみならず受信安定度を向上させる手法を取り入れています。更に同調精度を完璧なものにするため、アクティブサーボロック回路を搭載しました。この回路は、テクニクスの発明になる回路で、局部発振回路のみならず、IF段、音声信号を取り出す検波段まで含めて種々の要因によって起こる周波数ズレを完全に補正する優れた回路で、一度同調した局はあくまでベスト状態でキープします。

そのため、従来のように水晶で局部発振回路のみを固定してしまうクォーツロックなどとは異なり、極めてアクティブにかつ柔軟に同調点の保持を行いますので、たとえ万が一放送局の送信周波数がずれた場合もそれに追従してゆくという点からも、アナログ式チューナの極めつけと言っても過言ではありません。

### LED(発光ダイオード)指針を用いたアクティブセンサー方式で、より容易になった選局・同調操作

本機の指針は矢印の形をした2個のイエローのLEDと縦に細くカットされたレッドのLEDとから成っています。FM局を受信していない状態では3個のLEDが点灯したままですが、選局動作を行ってFM局の近傍まで指針が近づくと片方の矢印が消え、更に回す方向を残りの矢印が指示します。行きすぎれば反対の矢印が光り、その方向にチューニングつまみを回し、完全な同調点では中央の赤縦の

## 保証・サービスについて

- 1) 保証書—内容のご確認と保存のお願い。  
必ず「販売店印・保証期間」をご確認のうえ、購入店からお受け取りいただき、よくお読みのうえ、大切に保存してください。
- 2) 保証期間—1年間  
正常なご使用状態で、この期間内に万一故障を生じた場合には、保証書記載事項に基づきお求めの販売店で「無料修理」いたします。
- 3) 修理を依頼される前に  
この取扱説明書の7ページをよくお読みのうえ、再度点検をしていただき、なお異常のあるときは、保証書をお示しのうえ購入店にお申し出ください。
- 4) 本機の補修用性能部品の最低保有期間は8年です。
- 5) 補修用部品についての詳細、その他ご贈答・ご転居等の場合など、ご不明な点は  
お求めの販売店または最寄りのナショナル消費者ご相談センターに遠慮なくご相談ください。

LEDのみがシャープに光りつづけます。この場合、アクティブサーボロックスイッチが「on」のときは、同時にロックインジケータが点灯し、完全同調点に引き込まれたことを表示します。

また、AM受信の場合は、同調点に近づくに従い、左右の矢印の明るさが同時に減衰してゆき、矢印が最も暗くなった点あるいは完全に消えた点が最適同調点となります。

以上のように、本機のアクティブセンサー方式は、従来のように指針とメータを交互に見る必要のあった選局同調操作から、指針にのみ神経を集中した選局同調操作へと一歩進んだ方式です。

### 音楽波形の忠実な伝送を可能にした素材の使用

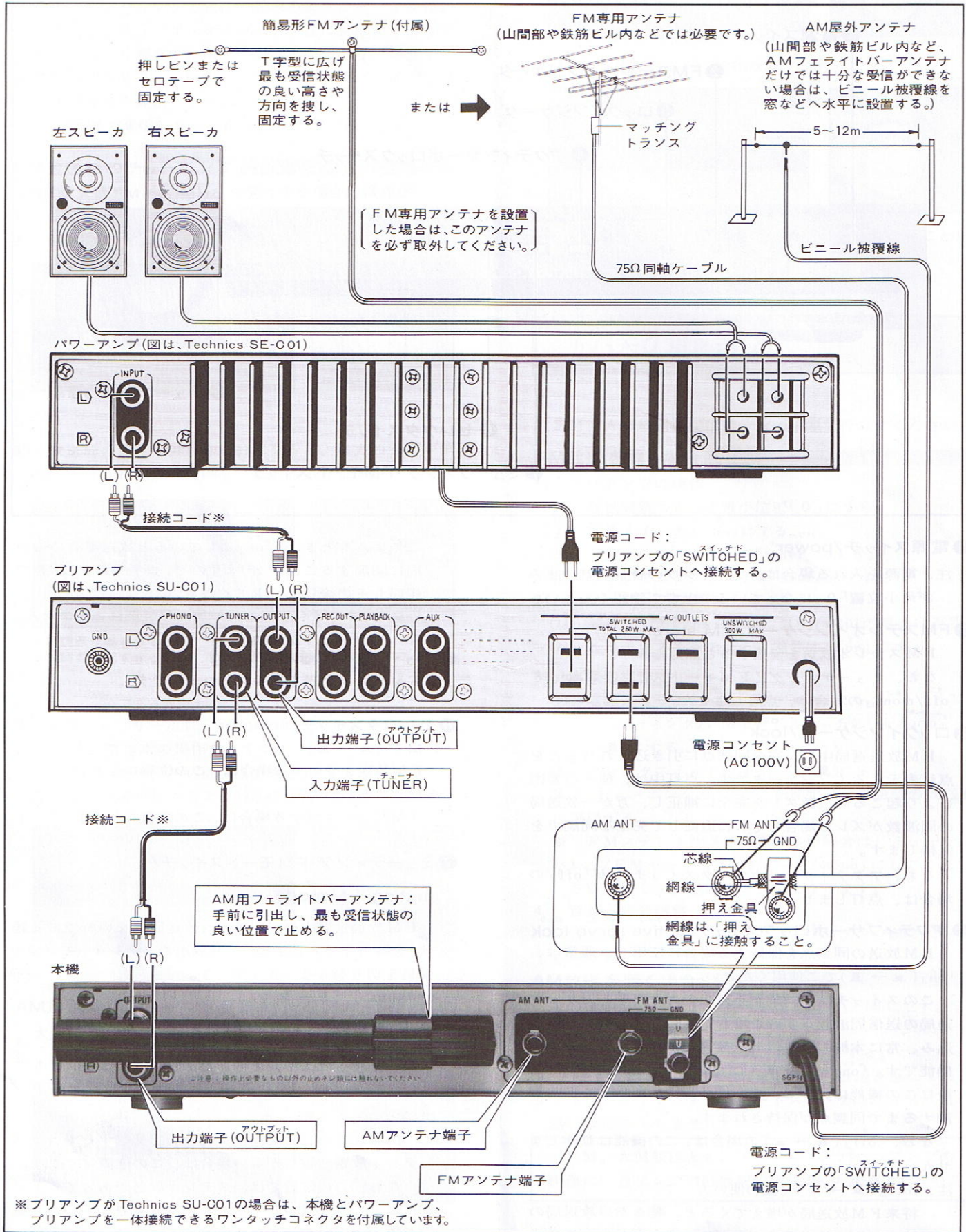
受信部の性能の他に、チューナにとって大切なことは忠実な波形の伝送を行うことですが、本機には群遅延特性の優れた精度の高いセラミックフィルタを採用し、75dBのシャープな選択度と0.15%(ステレオ)の低歪を両立。更にクアドラチャ検波やPLL・MPX復調回路を採用した充実設計としています。

### 3端子レギュレータを採用した高性能定電圧電源と精密仕上げの重厚なダイキャストキャビネットの採用

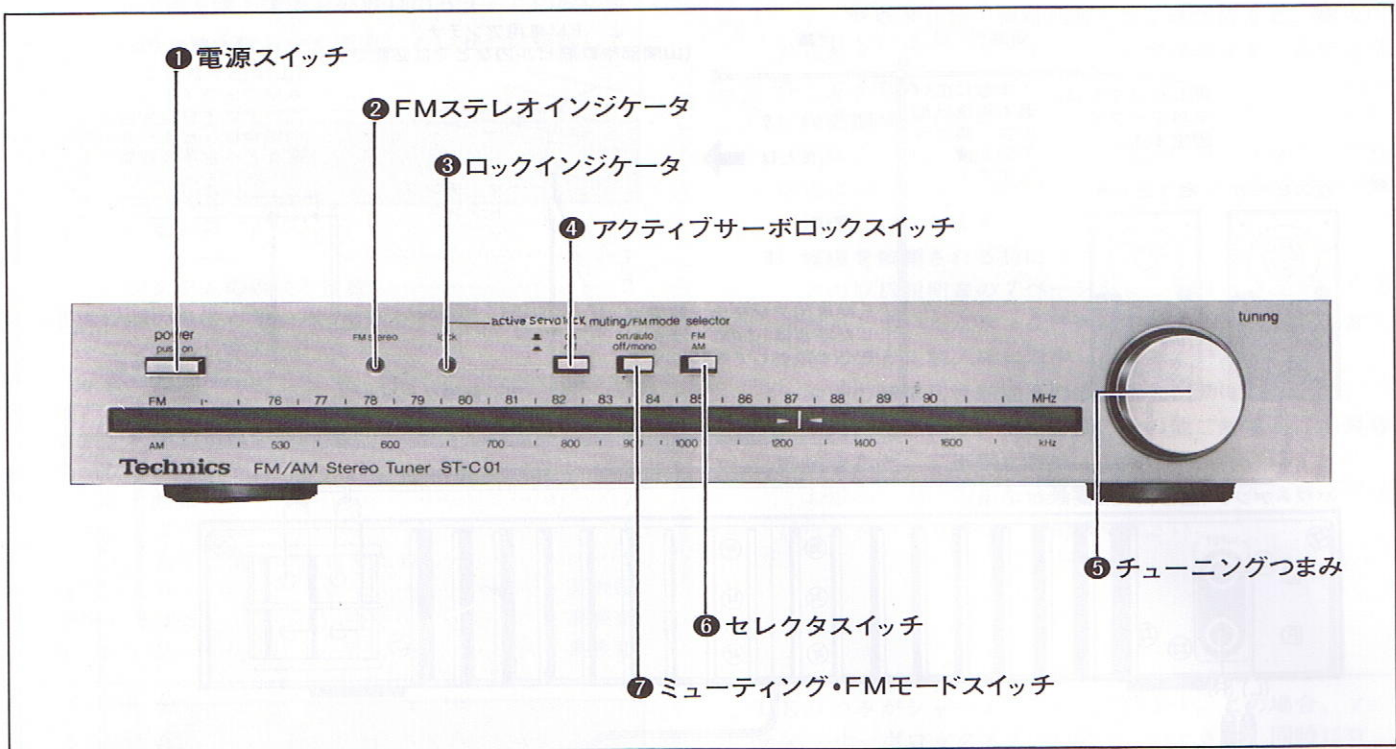
テクニクスは、従来から定電圧電源を積極的に採用し、チューナの高性能化を支えてきました。本機では定電圧回路に新しく3端子レギュレータを導入し、高安定度な電源としています。チューナの高い性能をより完璧に引き出す設計になっています。

また、キャビネットには前パネルと本体キャビネットを精密一体成形したダイキャスト製を採用しています。チューナとして大切なことは、希望する電波以外の妨害や雑音を受けないように注意することですが、そういった意味からも本機で採用したダイキャストキャビネットは、理想とも言える素材です。

# ステレオシステムの構成 と接続



# 前面操作部の名称と使い方



## ① 電源スイッチ/power

注、電源を入れる場合は、プリアンプの音量調整つまみが最小位置「0」になっていることをご確認ください。

## ② FMステレオインジケータ/FM stereo

F Mステレオ放送を受信すると点灯します。

なお、ミュートイング/F Mモードスイッチ⑦が、「off/mono」の場合は、点灯しません。

## ③ ロックインジケータ/lock

F M放送選局中に、完全同調点に引き込まれたことを点灯表示するインジケータです。点灯中は、種々の要因により起こる周波数ズレを完全に補正し、万が一放送局の周波数がズレた場合もそれに追従して完全な同調点を保持します。

なお、アクティブサーボロックスイッチ④が「off」の場合は、点灯しません。

## ④ アクティブサーボロックスイッチ/active servo lock

F M放送の同調点を保持する場合に使用し、通常は、「on」(■→■)でご使用ください。

このスイッチは、同調が不完全であったり、万が一放送局の送信周波数がずれた場合でも完全な同調点に引き込み、常に本機の受信性能を最大限に発揮させるための機能です。「on」(■→■)にすると、受信同調の約3秒後にこの機能は動作し、チューニングつまみ⑤を回し離調するまで同調点が保持されます。

なお、「off」(■→■)の場合は、この機能は動作しません。

注、「off」(■→■)位置の使い方：

将来F M放送局が増えてくると、聴きたい放送局の電波より別の放送電波の方が強い場合が発生します。

このようなときは、「on」にしていると放送電波の強い局に同調することがありますので、まず「off」の状態を選局しその後「on」にしてください。

なお、このスイッチは、A M放送には関係ありません。

## ⑤ チューニングつまみ/tuning

F M、A M放送を選局するつまみです。

## ⑥ セレクタスイッチ/selector

F M：(■→■)

F M放送を受信する場合は、この位置にします。

A M：(■→■)

A M放送を受信する場合は、この位置にします。

## ⑦ ミュートイング・FMモードスイッチ/muting・FM mode

ミュートイング モード  
muting・FM mode

F M放送選局中の局間雑音（放送局のない所で雑音）を除去するとともに、F M放送のステレオ、モノラル受信を切り替えるスイッチです。

on/auto：(■→■)

通常は、この位置で使用します。

F M放送特有の局間雑音が除去されるとともに、ステレオ放送はステレオで、モノラル放送はモノラルで受信されます。

off/mono：(■→■)

山間部など、放送電波の弱い局を受信する場合やステレオ放送で雑音が多い場合は、この位置にします。

なお、この位置では、ステレオ放送であってもモノラルとして受信され、また局間雑音もでするので音量を絞って選局してください。

## チューニングのしかた

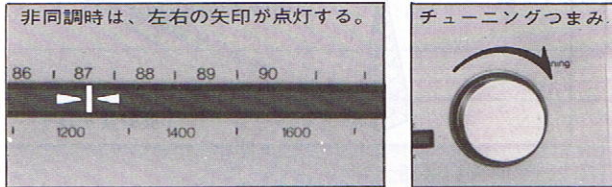
本機のチューニング方式は、従来のようにダイヤル指針とシグナル、チューニングメータを交互に見ながら操作する方式とは全く異なり、指針にのみ集中して容易に完全同調点が得られる Technics ならではの全く新しいアクティブセンサー方式を採用しています。

次の要領で操作してください。

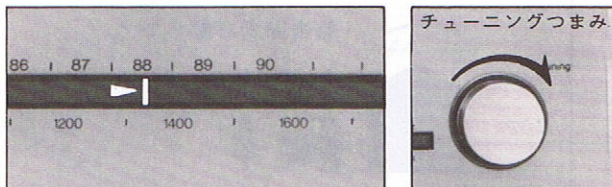
### FM放送時のチューニング

NHK 大阪FM(88.1MHz)を受信する場合の操作例：

- 1) アクティブサーボロックスイッチを「<sup>オン</sup>on」(■→■)にする。
- 2) 88MHzを目盛付近まで、チューニングつまみを回す。

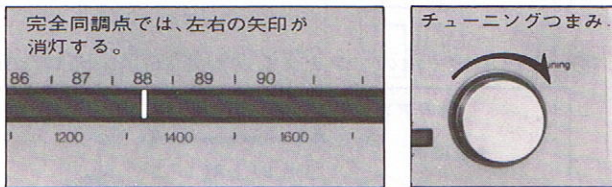


- 3) 放送局の近傍(50kHz以内)になると、片方の矢印が消え、2～3秒後に完全同調点に引き込みます。



- ・同調点が高すぎるとき：右の矢印が点灯する。
- ・同調点が低すぎるとき：左の矢印が点灯する。

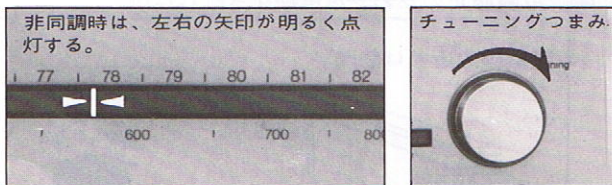
- ※ アクティブサーボロックスイッチが「<sup>オフ</sup>off」(■→■)の場合は、更に次の操作をしてください。
- ① 点灯した矢印の方向に指針を進める。
  - ② 完全同調点に入ると(10kHz以内)、指針のみ点灯する。



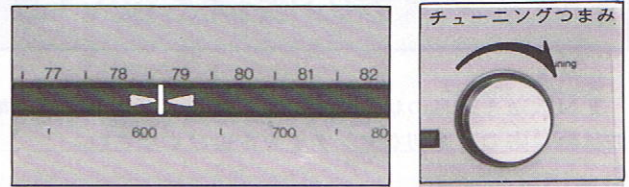
### AM放送時のチューニング

大阪NHK(620kHz)を受信する場合の操作例：

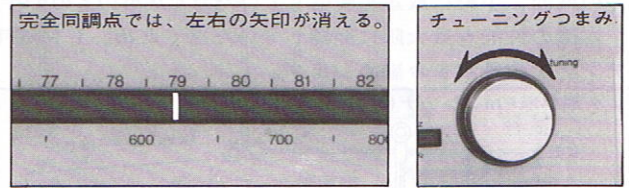
- 1) 620kHz付近を目盛まで、指針を進める。



- 2) 放送局の近傍になると、左右の矢印の輝きが薄くなる。



- 3) 完全に同調すると、左右の矢印は消える。



注、放送電波の弱い局の場合は、完全に消灯しないことがあります。

## 放送の聴き方

FM、AM放送の受信は、次の手順で行ってください。

### FM放送を聴く場合

#### 1) プリアンプの操作

- ① 音量調整つまみを最小位置「0」にする。
- ② 電源スイッチを「<sup>オン</sup>on」にする。
- ③ 入力切換えスイッチを「<sup>チューナ</sup>tuner」にする。
- ④ テープモニタスイッチを「<sup>ソース</sup>source」にする。

#### 2) パワーアンプの操作

- ① 電源スイッチを「<sup>オン</sup>on」にする。(SU-C01の場合は不要)
- ② スピーカスイッチがある場合は、「<sup>オン</sup>on」にする。

#### 3) 本機の操作

- ① 電源スイッチを「<sup>オン</sup>on」(■→■)にする。
- ② ミューティング/FMモードスイッチを「<sup>オン/オート</sup>on/auto」(■→■)にする。
- ③ セレクタスイッチを「FM」(■→■)にする。
- ④ 「チューニングのしかた」を参照し、ご希望の放送を選局する。

※ FMステレオ放送で雑音が多い場合は、ミューティング/FMモードスイッチを「<sup>オフ/モノ</sup>off/mono」にしてください。但し、放送はモノラルになります。

#### 4) 音量・音質調整

音量やその他音質調整などは、プリアンプ部で行ってください。

### AM放送を聴く場合

次の操作以外は、「FM放送を聴く場合」と同じです。

#### 本機の操作

- ① セレクタスイッチを「AM」(■→■)にする。
  - ② 「チューニングのしかた」を参照し、放送を選局する。
- ※ ミューティング/FMモードスイッチは、AM放送時には関係ありません。

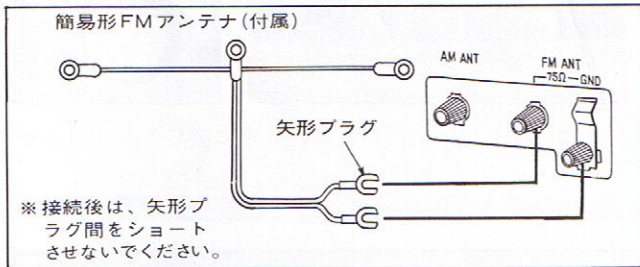
FM、AM放送とも、プリアンプ、パワーアンプの操作は、各アンプの取扱説明書をよくお読みください。

# FMアンテナの接続と使い方

FM放送を最良の状態を受信するため、ご使用地域の電波状態に応じた適切なアンテナをお選びください。

## 付属のアンテナ

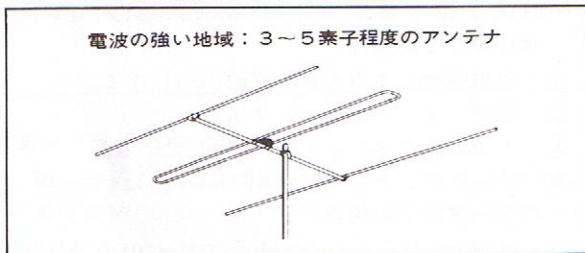
このアンテナは、屋外にFM専用アンテナを設置するまでの期間、手軽に放送を受信していただくためのものです。本機の性能を最大限に発揮していただくため、FM専用アンテナの設置をお勧めします。



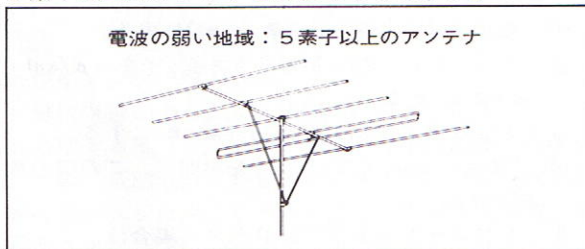
## FM専用アンテナ

### 1) 選び方

- ① 放送電波の強い地域（放送局が近く、送信アンテナの見通せるような所）：  
3～5素子程度のアンテナを設置してください。



- ② 放送電波の弱い地域（山間部やビルの谷間など）：  
5素子以上のアンテナを設置してください。



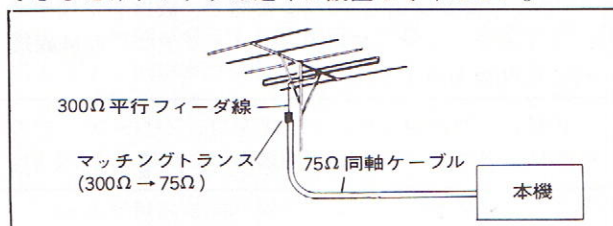
注、何素子のアンテナが良いかは、販売店ともよくご相談のうえお求めください。

### 2) アンテナ線

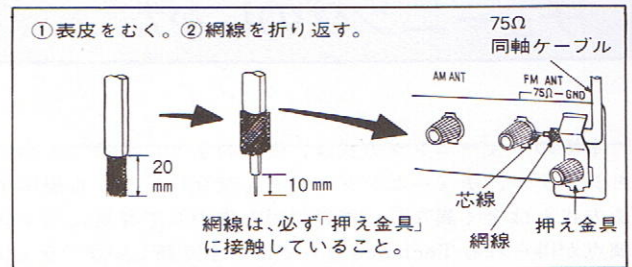
外部からの妨害雑音に強い、75Ω同軸ケーブル（品番3C-2V）の使用をお勧めします。

### 3) インピーダンスマッチング

75Ω同軸ケーブルが直接接続できないアンテナの場合は、マッチングトランスをお求めいただき、トランスはできるだけアンテナの近くに設置してください。



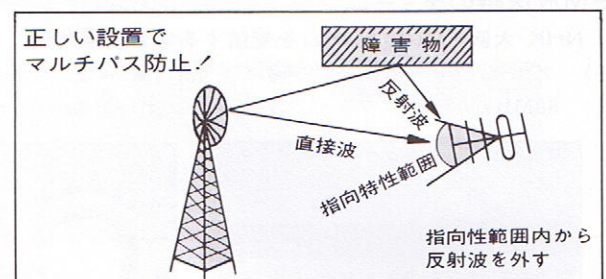
### 4) 接続のしかた



### 5) 設置場所

次の場所に設置してください。

- ① 建物の陰にならず、FM放送電波を直接受ける所。



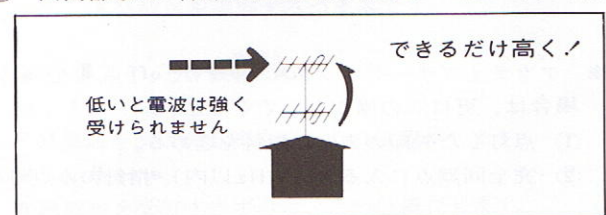
注、マルチパス歪とは：

近くの間やビルに反射した電波（反射波）と送信所からの電波（直接波）の干渉による歪。

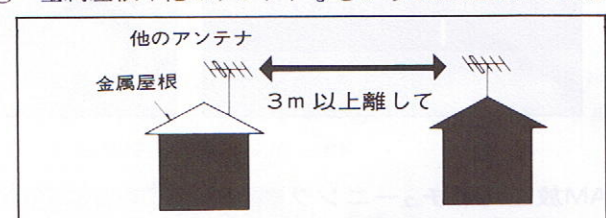
- ② 自動車の通る街路やネオン看板などから離れた所。



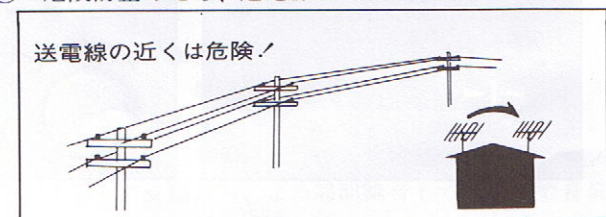
- ③ 山間部などの特殊な地域を除き、地上4m以上の高い所。



- ④ 金属屋根や他のアンテナなどから3m以上離れた所。



- ⑤ 危険防止のため、送電線から離れた所。



## AMアンテナの接続と使い方

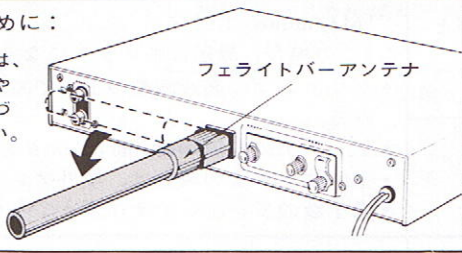
本機は、AM用高感度フェライトバーアンテナを内蔵していますので、特に電波の弱い地域以外は、屋外アンテナを必要としません。

### フェライトバーアンテナの使い方

フェライトバーアンテナを手前に引出し、最も受信状態の良い位置で固定してください。

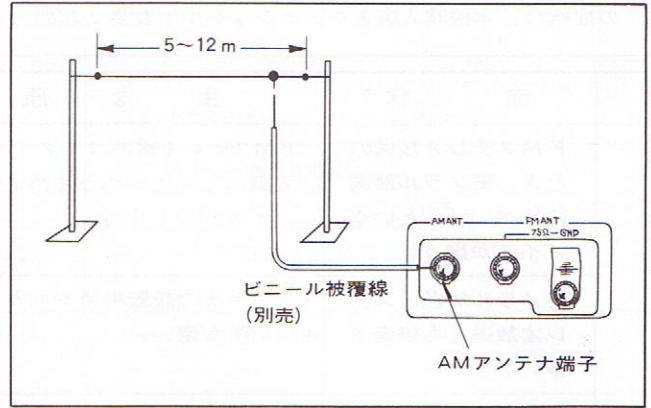
雑音防止のために：

このアンテナには、スピーカコードや電源コードを近づけないでください。

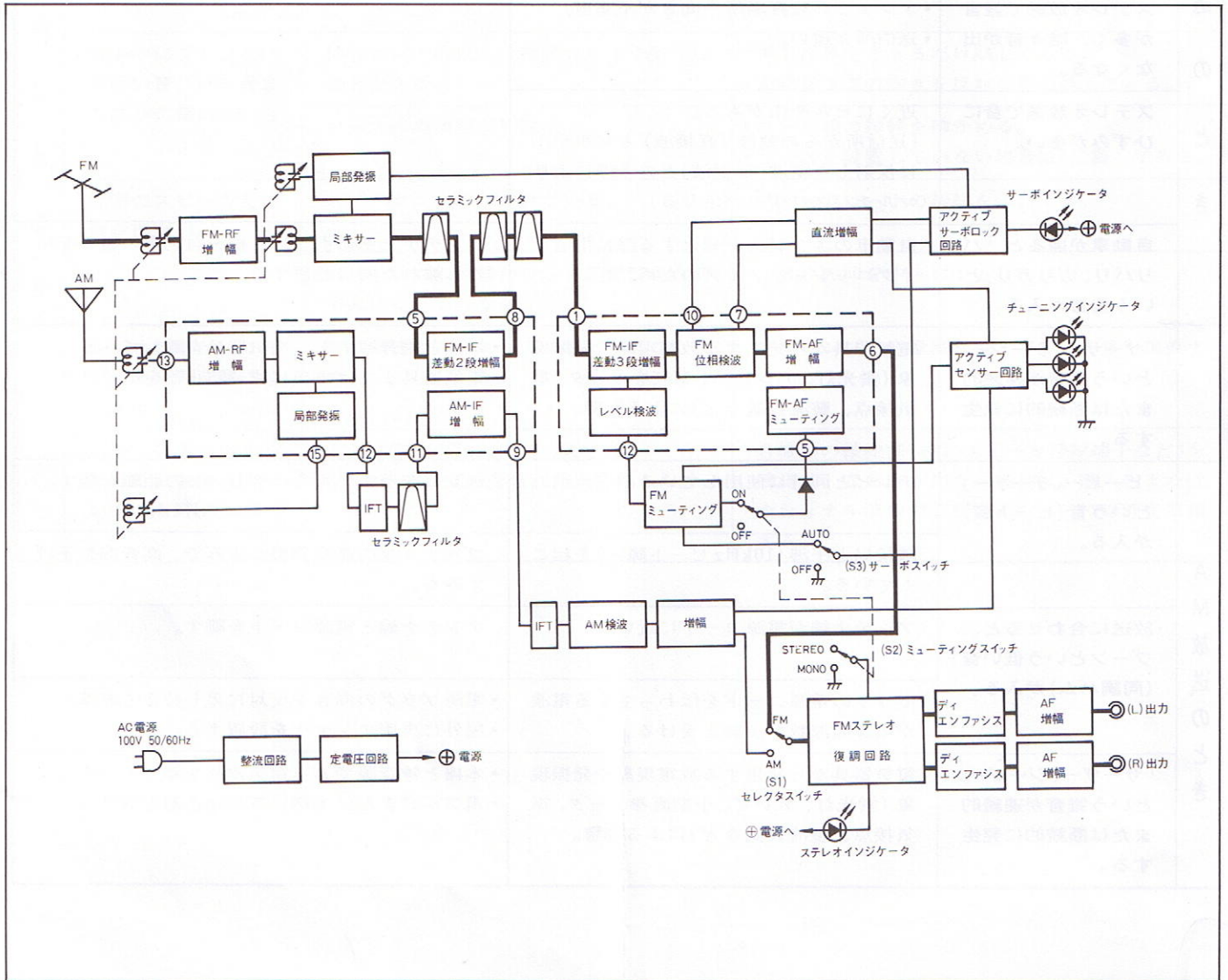


### AM屋外アンテナの設置のしかた

山間部や鉄筋ビルの谷間など、放送電波が弱く、フェライトバーアンテナだけでは受信困難の場合は、屋外に専用アンテナを設置してください。この場合、送電線、高压線、高い建物、道路から離れた所をお選びください。



## ブロックダイアグラム



# 異常症状と対策

修理を依頼される前に再度この表をご確認ください。

なお、これらの処置をしても直らない場合やこの表以外の症状は、本機購入店またはナショナル消費者ご相談センター

ター(別紙)にご相談ください。

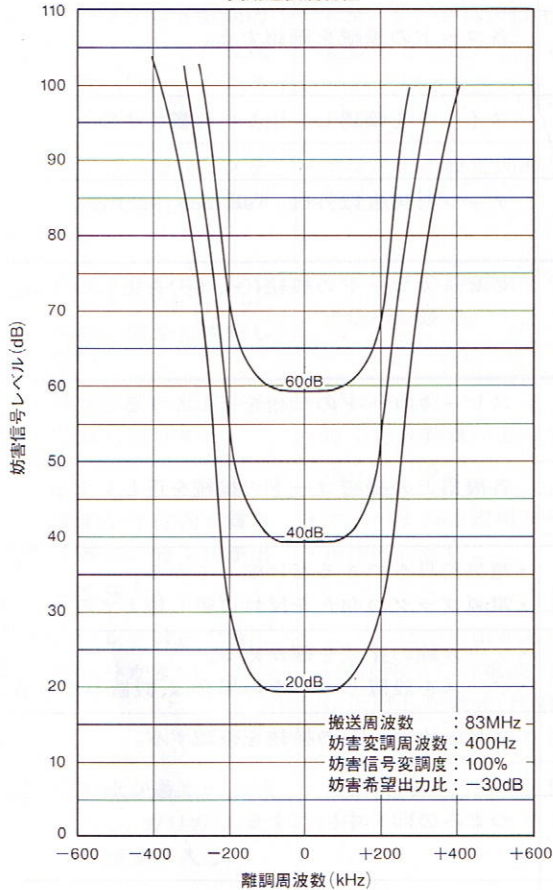
注、この表は、本機とTechnicsのプリアンプSU-C01、パワーアンプSE-C01の組合せを基本に作成しています。

	症 状	主 な 原 因	対 策
FM放送のとき	FMステレオ放送のとき、モノラル放送に比べ「サー」というノイズが出る。	FMステレオ電波はモノラル電波に比べ、変調のしかたが異なるので電波が弱いとノイズが少し出る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュート/ FMモードスイッチ⑦を、「off/mono」にする。(この場合、放送はモノラルになる。)</li> <li>・プリアンプの高音調整つまみで高音部を下げしてみる。</li> </ul>
	モノラル放送、ステレオ放送とも雑音が多い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンテナの設置場所や向きが不適当。</li> <li>・送信所が遠い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンテナの設置場所、高さ、向きを変えてみる。</li> <li>・室内アンテナの場合は、屋外アンテナにする。</li> <li>・素子数の多いアンテナに変えてみる。</li> </ul>
	FMステレオインジケータが「チカチカ」光り、完全に点灯しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンテナの設置場所や向きが不適当。</li> <li>・送信所が遠い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンテナの設置場所、高さ、向きを変えてみる。</li> </ul>
	音がひずんだり小さくなったりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電波の乱れ。</li> <li>・近くを自動車が走っていたり、飛行機が飛んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内アンテナの場合は、屋外アンテナにする。</li> <li>・素子数の多いアンテナに変えてみる。</li> </ul>
	ステレオ放送で雑音が多く、時々音が出なくなる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンテナの設置場所や向きが不適当。</li> <li>・送信所が遠い。</li> </ul>	
	ステレオ放送で音にひずみが多い。	<p>近くにビルや山がある。 〔送信所からの電波(直接波)とビルや山に反射した電波(反射波)との干渉によりマルチパスひずみが生じる〕</p>	
	自動車が通ると「バリバリ、ガリガリ」という雑音が入る。	自動車のエンジンが発火する際に生じるイグニッションノイズのため。	アンテナとその引き込み線を自動車の通る街路から離れた所に設置する。
「ザーザー、ジージー」という雑音が連続的または断続的に発生する。	電気器具から発生する放電現象や発振現象(蛍光灯、テレビ、小型直巻モータ、電気接点、整流装置など)による影響。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本機と雑音源である電気器具を離してみる。</li> <li>・電気器具または本機に雑音防止器を取付ける。</li> </ul>	
AM放送のとき	「ピーピー、チーチー」という音(ビート音)が入る。	<p>テレビと同時に使用している。</p> <p>隣接局と干渉(10kHzビート障害)を起こしている。</p>	<p>テレビを消す。またはテレビとの距離を離す。</p> <p>プリアンプの高音調整つまみで、高音部を下げしてみる。</p>
	放送に合わせると、ブーンという低い音(同調ハム)が入る。	<p>アンテナ線が電源コードに近い。</p> <p>セットの電源コードを伝わってくる電波が電源周波数で変調を受ける。</p>	<p>アンテナ線と電源コードを離す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電源プラグの向きを反対に差し替えてみる。</li> <li>・屋外に専用アンテナを設置する。</li> </ul>
	「ザーザー、ジージー」という雑音が連続的または断続的に発生する。	電気器具から発生する放電現象や発振現象(蛍光灯、テレビ、小型直巻モータ、電気接点、整流装置など)による影響。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本機と雑音源である電気器具を離してみる。</li> <li>・電気器具または本機に雑音防止器を取付ける。</li> </ul>

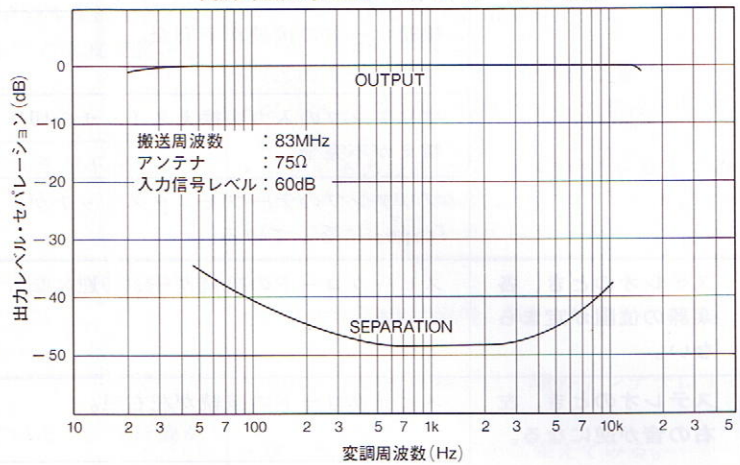
	症 状	主 な 原 因	対 策
す べ て に 共 通 し た 症 状	電源を入れても音が出ない。	電源プラグの差し込みが不完全。	電源プラグの差し込みを確認する。
		電源ヒューズが切れている。	電源ヒューズの交換を購入店またはナショナル消費者ご相談センターに依頼する。
		接続コードの接続が不完全。	各コードの接続を確認する。
		プリアンプの入力切換えスイッチの切り替えが不完全。	スイッチを確認し、正しい位置にする。
		プリアンプのテープモニタスイッチが、「 <sup>テープ</sup> tape」になっている。	テープの再生以外は、「 <sup>ソース</sup> source」にする。
	ステレオのとき、各楽器の位置が定まらない。	スピーカコードの接続が⊕、⊖逆になっている。	スピーカコードの接続(⊕、⊖)を正しくする。
	ステレオのとき、左右の音が逆になる。	スピーカコードの接続が左右逆。	スピーカコードの接続を正しくする。
		各機器との接続コードの接続が左右逆。	各機器との接続コードの接続を正しくする。
	演奏中にブーンという低い音(ハム音またはバズ音)が入る。	接続コードの近くに電源コードや蛍光灯などがある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気器具をできるだけ離してみる。</li> <li>電源プラグの向きを反対に差し替えてみる。</li> </ul>
		アース線の接続が不完全。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アース線の接続を確かめる。</li> <li>アースを設置していない場合は、設置してみる。</li> </ul>
	片側のスピーカだけ音が出ない。	スピーカコードが外れている。	スピーカコードの接続を確認する。
		プリアンプの音量バランス調整つまみが中央になっていない。	つまみの印を中央にする。
ラジオ放送とレコード演奏時の音量に差がある。	電波の強さとレコードの出力が異なるため。	プリアンプの音量調整つまみで、音量を調整する。	
演奏中に音が出なくなった。(各機器のランプは点灯している。)	入力に直流成分が加わったため。(パワーアンプの保護回路が動作した。)	各機器の接続部(特にスピーカ接続端子など)を確認し、なお音が出ない場合は、購入店またはナショナル消費者ご相談センターに修理を依頼する。	

# データグラフ

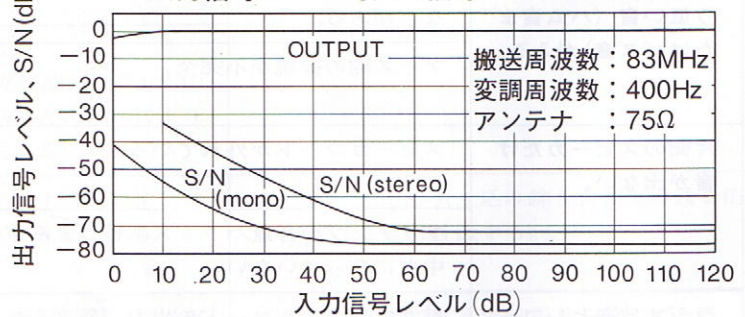
実効選択度特性



変調周波数対出力レベル・セパレーション特性



入力信号レベル対出力信号レベル, S/N特性



## 安全にすえ長くご使用 いただくために

### 1. ご使用いただく電源電圧はAC100Vです

- 1) 交流 (AC) 200V で使うと大変危険です。  
大型クーラやセントラルヒーティングの電圧は 200V です。  
誤って接続すると発火の恐れがあります。
- 2) 直流 (DC) 電源では使えません。  
船舶などは、直流 (DC) 電源を使用している場合がありますので、よくお確かめください。



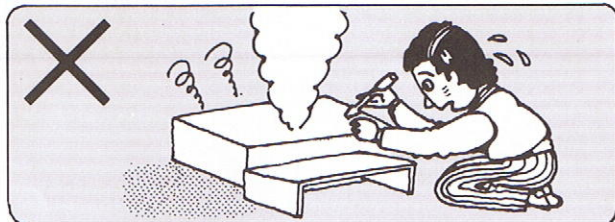
## 2. 電源プラグの抜き差しは

- 1) ぬれた手は危険です。  
ぬれた手で抜き差しは感電の恐れがあります。
- 2) 電源コードを引っぱらずに  
必ず電源プラグを持って外してください。



## 3. 改造は事故のもと

改造したり、不用意に内部を触ると、感電や故障の原因になります。



## 4. とくにお子様のおられるご家庭では

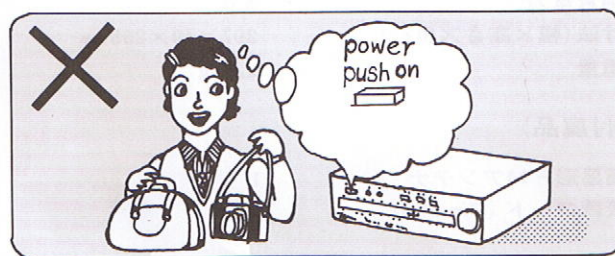
セット内部には絶対金属物などを差し込まないようにしてください。

本機のすき間などから、硬貨、縫い針、ねじ回しなどの金属物を差し込むと感電や故障の原因になります。



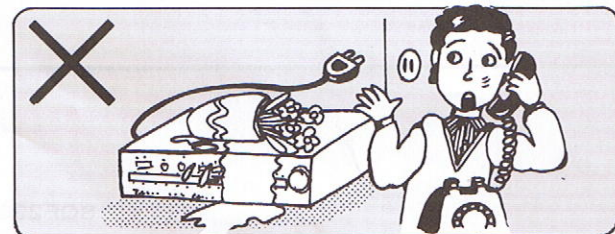
## 5. 使用後は、必ず電源を「OFF」に

電源が入ったまま長時間放置すると、寿命を短くするばかりか思わぬ事故につながる恐れがあります。



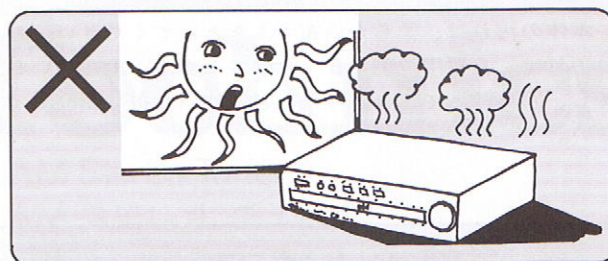
## 6. 水は禁物です

万一本機に水が入った場合は、火災や感電の恐れがありますので、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて購入店にご相談ください。



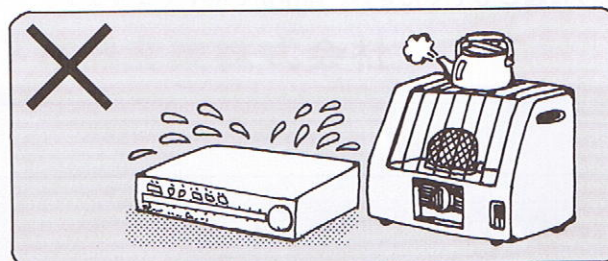
## 7. 直射日光が当たらず、風通しのよい所へ設置を

壁面より10cm以上離れた風通しの良い所を選び設置してください。



## 8. 本機の近くには、ストーブなど置かないように

輻射熱により、キャビネットや内部の回路部品を傷め寿命を短くする原因になります。



## 9. スプレー式の殺虫剤にご注意を

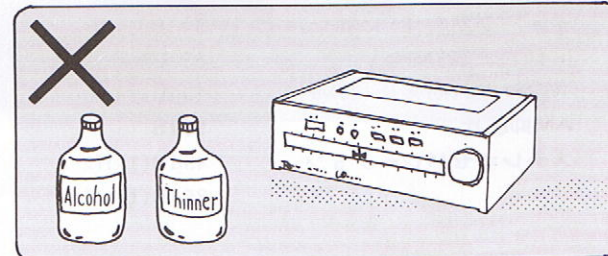
殺虫剤がかかると、「ヒビ割れ」や「くもり」を生ずることがあります。

またスプレーのガスは引火の恐れもありますので、ご注意ください。



## 10. アルコールやシンナーは禁物です

塗装がはげたり、くもりが生じます。



### 万一故障が起きましたら

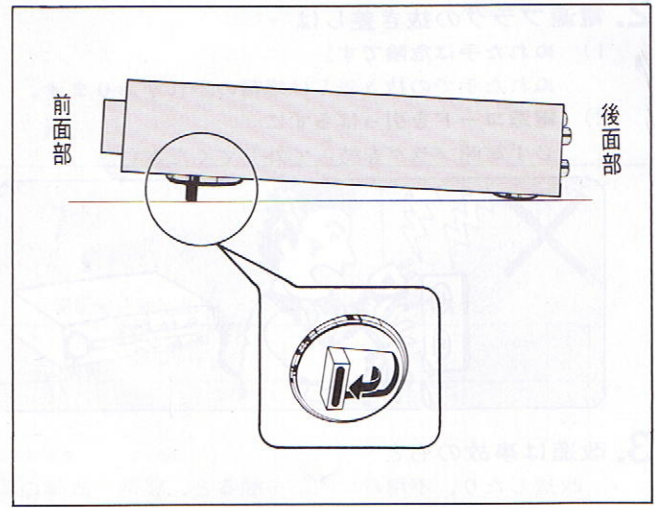
使用中に受信状態が悪くなったり、またランプが消えたり異様なにおいや煙が出た場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜きとり、本機購入店またはナショナル消費者ご相談センターにお申し出ください。

## 外観の手入れ

本体の汚れは、柔らかい布でふきとってください。ひどい汚れは、食器用洗剤を5～6倍にうすめ、柔らかい布を浸し、固く絞ってふきとったあと、乾いた布でふいてください。

## 前面部の上げ方

設置場所によっては、本機底面の前面左右の脚部を図のように起こしてください。操作がしやすくなります。



## 定格と付属品

### 〈FMチューナ部〉

受信周波数帯	76～90MHz
実用感度	0.9 $\mu$ V(75 $\Omega$ ) 10.3dBf(新IHF)
S/N 50dB感度 mono	2.0 $\mu$ V(75 $\Omega$ ) 17.3dBf(新IHF)
stereo	28 $\mu$ V(75 $\Omega$ ) 40.2dBf(新IHF)
全高調波歪率 mono	0.1%
stereo	0.15%
S/N比	75dB
周波数特性	20Hz～15kHz, $\pm 0.5$ dB $\pm 1.5$ dB
実効選択度	75dB
キャプチャレシオ	1.0dB
イメージ妨害比(83MHz)	50dB
IF妨害比(83MHz)	85dB
スプリアス妨害比(83MHz)	75dB
AM抑圧比	55dB
ステレオセパレーション	45dB(1kHz) 35dB(10kHz)

リークキャリア	-35dB
アンテナ端子	75 $\Omega$ 専用

### 〈AMチューナ部〉

受信周波数帯	525kHz～1605kHz
実用感度(S/N=20dB)	30 $\mu$ V
選択度	30dB
イメージ妨害比	55dB
IF妨害比	40dB

### 〈総合〉

出力	0.5V
電源	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	8W
寸法(幅×高さ×奥行)	297×49×255mm
重量	2.9kg

### 〈付属品〉

簡易形FMアンテナ	1
接続コード(Pin-Pin)	1

松下電器産業株式会社 ステレオ事業部

〒570 大阪府守口市松下町2番地

☎(06)992-1551

SQF2965

F0578T0